

基本事業コード	06060001	担当課所名	地域医療対策課
基本事業名	地域医療対策事業		
総合振興計画 の位置づけ	基本柱(章)	3	温もりと安心のある「健康のまち」
	政策	2	安心できる医療のまちづくり
	施策	1	地域医療システムの充実
			総合振興計画 89 ページ

**基本事業の概要**  
 秩父地域の医療サービス体制の強化や救急体制の維持充実のために、市立病院と連携し、県・広域組合・医師会等と医療体制整備の協議を進める。市民の医療に対する理解を深めるため、広報活動や小児救急リーフレット作成配布、地域医療講演会等を実施する。また、平成21年度に締結されたちちぶ定住自立圏形成協定に基づく医療分野支援事業を推進し、「ちちぶ医療協議会」を運営する。

**対象** 市民及び4町住民、医療機関、地方公共団体職員  
**意図** (対象をどのようにしたいか) 医療関係機関と連携し地域医療体制、救急医療体制の整備、充実を図り、市民及び4町住民が安心して暮らせるようにする。

基本事業指標	指標の算式	単位	23年度	評価年度(24年度)		26年度	他団体の指標(数値)
			過年度実績値	目標値	実績値	目標値	
二次救急病院群輪番制の当番日における受入患者数	3病院合計	人	7,394.	-	8,557.	-	
休日・夜間の二次救急病院群輪番制の開設日数		日	437.	437.	437.	437.	

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

枝番号	事務事業名 (★=実施計画事業)	指標				単位	事務事業評価 26年度以降の 事業の方向性 コスト成果	重点化
		事業費(円)			24年度			
		23年度決算額	24年度決算額	25年度予算額	目標値(上段) 実績値(下段)			
01	地域医療広報事業	指標	医療啓発情報の発信回数	6.	回	B		
			5,822	227,266	395,000	8.	維持 拡充	
02	地域医療講演会事業	指標	講演会参加人数	100.	人	A		
			44,037	29,435	49,000	120.	維持 維持	
03	小児救急リーフレット作成配布事業	指標	小児救急リーフレット配布枚数	2,000.	枚	B		
			13,497	15,882	49,000	2,633.	縮小 維持	
04	救急医療体制等連絡調整事業	指標	各連携会議参加回数	10.	回	A		
			4,940	0	6,000	35.	維持 維持	
05	秩父郡市医師会、民間医療機関等との連絡調整事業	指標	医師会事務局等との協議実施回数	12.	回	A		
			0	0	0	46.	維持 維持 ○	
06	秩父広域市町村圏組合負担金	指標	二次救急輪番制参加病院数	3.	病院	A		
			30,271,000	32,982,000	32,927,000	3.	維持 維持	
07	秩父看護専門学校運営費補助金	指標	市内医療関係機関への就職者数	10.	人	A		
			18,000,000	18,000,000	18,000,000	5.	維持 維持	
08	★ ちちぶ定住自立圏医療分野支援事業(ちちぶ医療協議会事業)	指標	分科会設置数	4.	分科会	B		
			0	16,000,000	16,000,000	4.	縮小 維持 ◎	
09		指標						
10		指標						
11		指標						
12		指標						
13		指標						
14	【平成23年度終了事業】	指標						
			45,000,000					

(参考) 最終予算額(円) 93,418,000 67,494,000 67,426,000  
 事業費の合計(円) (A) 93,339,296 67,254,583 67,426,000

財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他特定		3,200,000	3,200,000
	一般財源	93,339,296	64,054,583	64,226,000

正規職員	業務量	1.75人	2.60人
	人件費(B)	10,398,948	15,653,303
臨時職員 (事業費に含む)	業務量		
	人件費		

事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B) 103,738,244 82,907,886

【重点化欄】

◎: 評価時点以降の事業の方向性(コスト・成果)の状況から、特に重点化する必要がある事業(1つ以内)

○: 重点化する必要がある事業(2つ以内)

成果の方向性	拡充	×	C, B	B, C	C
	維持	×	B	A	×
	縮小	×	C	×	×
	休廃止	D	×	×	×
	皆減	縮小	維持	拡大	
		コスト投入の方向性			

◆評価◆

評価の視点	左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 基本事業の意図は適切か？また基本事業指標と目標値の設定は適切か？実績値に問題はないか？
基本事業指標の分析	市民が安心して生活するためには救急医療体制の維持、充実が不可欠である。二次救急医療体制を担う輪番制参加病院が3病院であり、各病院の負担は過重となっている。これ以上の輪番制病院の減少は救急の欠番日を生じる危険があるため、救急医療体制の維持が秩父地域の医療体制の課題である。そのため、輪番制開設日数と二次救急当番日における受入患者数を指標とした。開設日数は休日72日、夜間365日の開設を確保することができた。
基本事業を構成する事務事業の妥当性	基本事業指標を達成するために構成した事務事業に問題点はないか？ 04救急医療体制等連絡調整事業及び05秩父郡市医師会、民間医療機関等との連絡調整事業は、産科医療機関が減少したため、対応策の検討のため協議回数が増大した。08ちちぶ定住自立圏医療分野支援事業(ちちぶ医療協議会事業)は、事務局として協議会及び分科会の運営、事業執行、予算、決算まで実施し医療機関等への財政支援を行った。
実施主体の妥当性	行政(国・県・市)・企業・市民・NPO等それぞれの実施主体は適切か？ 医療体制の充実、強化は秩父保健医療圏全体で推進する事業である。県、広域組合、4町、郡市医師会、医療機関等との協力、連携体制を基に秩父地域保健医療計画に沿って事業を実施する。定住自立圏構想の中心市として「ちちぶ医療協議会」事務局を担い「共生ビジョン」に掲げる事業を進める。

↓ Action

◆改善提案◆

新規に実施する事務事業名	事業の概要
表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、重点化する事業として選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 医療関係機関と連携し地域医療体制、救急医療体制の整備、充実を図り、市民及び4町の住民の医療への理解や知識を深めるため、08ちちぶ定住自立圏医療分野支援事業(ちちぶ医療協議会事業)を重点化する。ちちぶ医療協議会では、4分科会を設置し秩父地域で後期研修医を受け入れる体制づくりや救急医療、予防医療、リハビリテーション医療、産科医療等について協議検討を行い医療機関への財政支援等を実施することで地域医療体制の充実を図る。	
改善のため休廃止する事務事業名	休廃止する理由
この基本事業の意図を達成するための、具体的な改善提案(改善内容、始期、終期等)	
予算を伴わず早急に実施可能な改善提案	「ちちぶ医療協議会」の各分科会活動が委員、関係者に把握しやすいようメールや文書で情報提供を行う。 02地域医療講演会事業の小児救急講習会は受講者が少ないため見直しを検討する。05秩父郡市医師会・民間医療機関等との連絡調整事業では、秩父地域の産科医療機関が減少しているため既存の医療機関への支援等について検討を開始する。 02小児救急講習会は23年度のみの実施とした。05医師会等の連絡調整事業で、産科医療機関の診療継続へ向けて協議を行い支援策の検討を行った。
短期的(1~2年以内)に実施可能な改善提案	03小児救急リーフレット作成配布事業は「ちちぶ医療協議会」での作成を検討する。  「ちちぶ医療協議会」の検討段階に至っていない。
中長期的(概ね3~5年)に実施可能な改善提案	
改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー 定住自立圏構想「ちちぶ医療協議会」の活動により地域医療体制、救急医療体制の整備、充実が図られることで市民及び4町の住民が安心して暮らせるようになる。	

基本事業執行責任者 (担当課長名)	笠原 明彦	電話番号 0494-22-2279
----------------------	-------	----------------------

基本事業コード	06060002	担当課所名	地域医療対策課
基本事業名	医師確保対策事業		
総合振興計画 位置づけ	基本柱(章)	3	温もりと安心のある「健康のまち」
	政策	2	安心できる医療のまちづくり
	施策	2	公的医療機関の充実
			総合振興計画 91 ページ

**基本事業の概要**  
市立病院、大滝国保診療所に勤務する医師を確保する。自治医科大学卒業医師、派遣関連大学病院医師、秩父市出身の医師等に働きかけて市立病院に勤務していただく。定住自立圏構想で招へいする医療専門家の指導・助言を受け医師確保の方策を検討する。将来、市立病院等に勤務することを条件に、医科大学生等に奨学金を貸し付ける。貸付期間の1.5倍勤務することで奨学金の償還を全額免除する。

**対象**  
自治医科大学卒業医師、派遣関連大学病院医師、秩父市出身医師、保護者が市内に在住する医科大学入学予定者、大学生、大学院生、研修医

**意図**  
(対象をどのようにしたいか)  
市立病院等の医師として勤務してもらう

基本事業指標	指標の算式	単位	23年度	評価年度(24年度)		26年度	他団体の指標(数値)
			過年度実績値	目標値	実績値	目標値	
市立病院常勤医師数		人	19	22	21	21	
奨学金新規貸付決定者数		人	0	1	0	1	

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

枝番号	事務事業名 (★=実施計画事業)	指標			24年度	単位	事務事業評価 26年度以降の 事業の方向性 コスト成果	重点化
		事業費(円)			目標値(上段)			
		23年度決算額	24年度決算額	25年度予算額	実績値(下段)			
01	医療関係機関訪問事業	指標	県、大学病院等訪問回数	9	回	A	◎	
		18,446	26,590	56,000	8	維持	維持	
02	医学生等奨学金貸付事業	指標	奨学金貸付制度の募集回数	2	回	A		
		3,610,174	3,601,044	11,414,000	1	維持	維持	
03		指標						
04		指標						
05		指標						
06		指標						
07		指標						
08		指標						
09		指標						
10		指標						
11		指標						
12		指標						
13		指標						
14		指標						

(参考) 最終予算額(円)		3,672,000	3,676,000	
事業費の合計(円) (A)		3,628,620	3,627,634	11,470,000
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
正規職員	地方債			
	その他特定			
臨時職員 (事業費に含む)	一般財源	3,628,620	3,627,634	11,470,000
	業務量	0.25人	0.40人	
人件費(B)		1,485,564	2,408,200	
事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B)		5,114,184	6,035,834	

**【重点化欄】**  
◎: 評価時点以降の事業の方向性(コスト・成果)の状況から、特に重点化する必要がある事業(1つ以内)  
○: 重点化する必要がある事業(2つ以内)

成果の方向性	拡充	×	C, B	B, C	C
	維持	×	B	A	×
	縮小	×	C	×	×
	休廃止	D	×	×	×
	皆減 縮小 維持 拡大 コスト投入の方向性				

◆評価◆

評価の視点	左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 基本事業の意図は適切か？また基本事業指標と目標値の設定は適切か？実績値に問題はないか？
基本事業指標の分析	この事業は市立病院等の勤務医を確保することが目的であり常勤医師数と奨学金新規貸付決定者数を指標とした。常勤医師数は平成23年度末19人であったが、内科の自治医科大学卒業義務年限内の医師が2人増員となり平成24年度は21人の在籍となった。しかし、市立病院へ医師を派遣している大学病院も医局の医師が減少してきており、派遣医師数の減少が懸念される。医学生等奨学金貸付事業は将来に向けての医師確保策であるが、本年度は、新規の貸付決定者を得られなかった。
基本事業を構成する事務事業の妥当性	基本事業指標を達成するために構成した事務事業に問題点はないか？ 01医療関係機関訪問事業は埼玉医大や埼玉医大総合医療センター等を訪問し秩父地域の産科医療の現状を説明し医師派遣等の要請を行った。02医学生等奨学金貸付事業は、問合せのみで、新規貸付には至らなかった。地域医療対策事業08ちちぶ定住自立圏医療分野支援事業と重複している部分があるが、本基本事業は市立病院等の医師確保に特化しているため妥当である。
実施主体の妥当性	行政(国・県・市)・企業・市民・NPO等それぞれの実施主体は適切か？ 市立病院等の医師確保のため、市が実施主体を担うことは適切である。

↓ Action

◆改善提案◆

新規に実施する事務事業名	事業の概要
表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、重点化する事業として選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 市立病院等の医師として勤務してもらうという意図を達成するために、01医療関係機関訪問事業を重点化する。従来の医師招へい活動に加え、定住自立圏構想の「ちちぶ医療協議会」で実施するa)ちちぶ圏域医師・医療関係者教育プログラム作成分科会の活動を取組み、秩父地域で研修医を受入れていくことが市立病院の勤務医を増やすことに繋がる。	
改善のため休廃止する事務事業名	休廃止する理由
この基本事業の意図を達成するための、具体的な改善提案(改善内容、始期、終期等)	
予算を伴わず早急に実施可能な改善提案	昨年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下) 市立病院事務局との情報共有を図っていく。病院運営会議の傍聴を継続する。奨学金の貸付決定者へ定期的に市立病院等の情報提供を行う。秩父地域の産科医療機関が減少しており、将来的に市立病院に産科を設置するための検討を開始する。 病院運営会議には引き続き傍聴を行い情報の共有に努めた。奨学金の貸付決定者には、定期的に情報提供を行った。産科医療に対する情報収集を開始した。
短期的(1~2年以内)に実施可能な改善提案	市立病院の医師数を検証して02医学生等奨学金貸付事業をいつまで実施するか検討していく。  市立病院の医師数が減少しているため、現在のところ奨学金制度の見直しを実施していない。
中長期的(概ね3~5年)に実施可能な改善提案	
改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー 市立病院等の医師が安定して確保されれば医師の勤務も軽減され市民が安心して暮らせるようになる。	

基本事業執行責任者 (担当課長名)	笠原 明彦	電話番号 0494-22-2279
----------------------	-------	----------------------